

日本独自の数学文化

江戸の「和算」は世界水準 !?

- ◆講師：作家 鳴海 風(なるみ ふう)
- ◆日程：2016年11月12日(土) PM
- ◆場所：名古屋市商工会議所ビル 2階

「和算(わさん)」とは、明治5年に数学教育の基本を西洋数学に統一する前に、日本で発達した数学のことです。洋服に対して和服、洋食に対して和食という言葉があるように、西洋数学つまり「洋算」に対して「和算」と呼ばれました。

やさしいものでは、鶴亀算やネズミ算などが有名ですが、渋川春海(しぶかわ はるみ)による貞享暦(じょうきょうれき:日本人による最初の太陰太陽暦)の計算も、伊能忠敬(いのうただたか)による全国測量も「和算」の知識なしにはできませんでした。

【講演内容】

- 有名な忠臣蔵の時代、日本の数学はどんなレベルだったのか？
- 「和算」の特徴のひとつ、算額奉納(さんがくほうのう)とはどんなものだったのか？
- 江戸時代の数学者で有名な関孝和(せき たかかず)とは、どんな人だったのか？

「和算」を題材にして約四半世紀、小説やノンフィクションを書いてきました。

今回は、江戸時代に花開いた数学文化「和算」の魅力をご紹介します。

2015年7月3日 BS-TBS 放送

THE歴史列伝「関孝和」に出演しました。

一部を録画でご紹介します。

番組の中でも陳列した

和算書(江戸時代出版)もご覧いただきます。



<http://www.bs-tbs.co.jp/retsuden/bknm/60.html>



講師 鳴海 風 プロフィール

関孝和数学研究所 研究員、日本数学協会 会員、博士(経営情報科学)。
1953年 新潟県生まれ。秋田県育ち。愛知県在住。本籍:江戸(笑)。
1980年 日本電装(現デンソー)入社。2014年まで生産システム開発に従事。
1992年 『円周率を計算した男』で歴史文学賞を受賞して作家デビュー。
以後、江戸時代の日本の数学「和算」を題材にした作品を書き続けている。
主な著書として、和算小説『算聖伝』『怒濤逆巻くも』『ランデの星』『和算忠臣蔵』『美しき魔方陣』『星空に魅せられた男』、ノンフィクション『和算小説のたのしみ』『江戸の天才数学者』『星に惹かれた男たち』など。
2004年 一関市博物館教育普及事業「和算に挑戦」上級の部 優秀賞受賞。
2006年 日本数学会出版賞受賞。